



平成18年度の電子アーカイブ事業について

JSTでは平成17年度から、国内学協会の学術雑誌の国際発信力の強化と知的財産の保存を目的として、重要な学術雑誌を過去に遡って電子化する「電子アーカイブ事業」を行っております。昨年度の電子アーカイブ対象誌として選定された74誌については、著作権等の問題がないものについて順次電子化を進めており、本年3月からはJ-STAGEのアーカイブサイト Journal@rchiveにて公開を開始しています。

今年度は4～5月に実施した国内学協会の学術雑誌についての基礎調査に寄せられた612誌分の回答を基に、新たに65誌を電子アーカイブ対象誌として追加選定しました。昨年度の対象誌はほとんどが英文誌でしたが、今年度は、和文誌も含めて、創刊の古い雑誌を中心に選定されています。

今回選定された対象誌は、英文誌18、和文誌22、和欧混載誌25の計65誌で、その過半数が創刊後70年以上経過しており、100年以上のものも10誌、最も古いものは1877年創刊です。これら全体で約4,500年分にもなり、昨年度分以上の規模となります。

今回選定された65誌については、前年度選定誌の残されている部分と並行して電子化作業を行う予定ですので、多くの部分は来年度の公開となる見込みですが、電子化完了した部分は順次登載・公開していく予定です。

また、来年度も引き続き電子アーカイブ対象誌を選定し、より多くの雑誌を電子化・公開していく予定です。

(Journal@rchiveサイト：<http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/>)



電子ジャーナル編集の推奨基準(案) — 説明会を開催

電子ジャーナルの発行が一般的になるに従って、学術雑誌の編集についても国際的な基準が整備されてきました。これにより、国際的に通用する電子ジャーナルを編集するためにはいくつか留意しなくてはならない点が出てきています。JSTでは、J-STAGEに参加している学協会の参考となるように、これらを「J-STAGE推奨基準(案)」としてまとめ、その説明会を9月15日に開催いたしました。説明内容は<<http://info.jstage.jst.go.jp/society/meeting/index.html#07>>に掲載されていますのでご覧下さい。主な内容は次のとおりです。

(1) 記事データの訂正・修正等について

電子ジャーナルと冊子体の両方を発行している場合、電子ジャーナルの内容は冊子体と一致している必要があります。その内容や記載に誤りがあった場合は、誤植も含めて訂正記事(エラータ)で訂正し、論文PDFを差し替えることはしないようにします。また、最近話題となっている撤回記事の取扱いについても説明しています。

(2) 記事のさまざまな版について

記事にはメディア(冊子体、オンライン、CD-ROMなど)や公開の形態(早期公開、通常公開)などさまざまな版がありますが、雑誌発行者としてはどれを正本とするか認識することが重要です。原則として正本がすべての完全な記事を掲載しています。

(3) 巻・号・ページ・発行年について

発行年は実際にその号が発行された年を記載します。発行予定年ではありません。

(4) 和文誌・和英混在誌の誌名英文表記について

和文誌・和英混在誌の誌名の英文表記は、英文誌名ではなくローマ字表記を原則とします。誌名の表記がばらつくと、引用数が正しく集計されません。

(5) 引用文献の書き方

和文論文で和文誌を引用する場合は、誌名は略記せず、完全名を記載するようにします。英文論文で和文誌を引用する場合は、原則としてローマ字表記とします。

この推奨基準(案)に説明会当日の皆様からいただいた意見を反映して、正式な推奨基準として公開する予定です。



図書館等への利用統計の提供開始について(COUNTER対応*)

JSTでは、図書館等の閲覧機関への利用統計レポートの提供は、世界的な潮流ととらえ、統計提供の開始と統計レポートの国際基準であるCOUNTER形式への準拠のため準備を進めてまいりました。このたび2006年8月末に「COUNTER*レポート提供サービス」として一部のIP認証利用誌の購読機関への先行配信と、webからの閲覧機関のアカウント登録受付を開始し、10月26日に広く配信を開始しました。

J-STAGEの掲載誌は、無償で公開されている雑誌や、一部または全部の本文PDFにID・パスワードやIPアドレスによる認証をかけている雑誌など、提供形態は様々です。このためCOUNTERレポートの対象雑誌も、IP認証を利用している購読機関に限定して統計を配信する雑誌と、どの機関からも自由に統計がダウンロードできる雑誌の2種類があります。統計レポートが利用できる雑誌については、9月22日時点の一覧をwebのサービス案内(下記URL)に掲示していますが、最新の一覧はダウンロードサイトにログインし「Report Manager」機能を利用すると確認できます(閲覧機関のアカウントが必要です)。また、学協会がレポート配信先を購読機関に限定している雑誌については、購読機関のアカウントのReport Managerにのみ表示されます。

COUNTERレポート提供サービスでは、次の情報を提供いたします。

・アカウント登録した閲覧機関に対して：

希望する雑誌についての登録されたIPアドレスからの利用統計レポート
(毎月の全文(PDF等)のダウンロード数)

・統計を提供する学協会に対して：

発行雑誌の統計配信先の機関の利用情報(機関名、連絡先等と各月の利用統計)
右図のように、統計レポートは閲覧機関と発行学協会に表裏で提供されます)

A大学 図書館向けレポート			
	9月	10月	合計
C誌	120	150	270
D C誌 学会向けレポート			
	9月	10月	合計
A大学	120	150	270
B大学	81	97	178

◆閲覧機関の雑誌購読担当のみなさまへ

「COUNTERレポート提供サービス」には、現在約50誌が参加しています。ぜひ、購読管理にお役立てください。閲覧機関によるアカウント登録は、下記案内画面から受け付けています。登録する機関のグローバルIPアドレスの範囲や、利用統計を受け取る担当の連絡先情報をご用意ください。

利用統計は登録されたIPアドレスについて申し込み時点から集計され、毎月翌月末までに、集計が完了次第メールでお知らせします。下記URLのリンク先からログインすると、最新の統計レポートがダウンロードできるほか、配信先機関を限定していない雑誌について、Report Managerでレポート対象を選択することができます。なお、IPアドレス等の登録情報に変更がある場合は、登録を更新した時点から集計に反映しますので、お早めに更新ください。

COUNTERレポート提供サービス：<http://info.jstage.jst.go.jp/library/counter/>

◆新たに統計配信を希望する学協会のみなさまへ：参加方法はJ-STAGEの担当にお尋ねください。

*COUNTERとは、Counting Online Usage of Networked Electronic Resourcesの略称で、電子サービスの利用統計についての国際基準です。図書館の契約する雑誌やデータベースの利用状況を比較しやすい形でお届けすることを目的としており、Elsevier、Blackwell、Springerなど多くの海外学術出版社がCOUNTER対応の統計データを提供しています。J-STAGEは現在COUNTER準拠申請中です。



新機能紹介

●検索サイトとの連携

◆Googleとの連携

Google、Google ScholarでJ-STAGEの記事が検索できるようになり、一般の方に閲覧してもらえる機会が広がりました。J-STAGEからGoogleに著者名、誌名などの書誌情報と索引用の全文PDFを提供しています。Googleで検索できるようにするためには、これらの情報の提供が必要になりますので、利用学協会に希望をお伺いした上で参加登録を行っています。登録後、Googleのクロール(情報収集)が完了しましたら順次検索できるようになります。

Googleの検索は多くの方が利用していますので、さらに閲覧数の増大が期待できます。また、文献検索に特化したGoogle Scholar(<http://scholar.google.com>)で検索可能になることにより、より多くの研究者の目に触れる機会が提供されます。



◆日経メディカル オンライン ぐるっとサーチとの連携 (<http://medical.nikkeibp.co.jp/>)

医学系情報サイトの日経メディカル オンライン上の記事から関連するJ-STAGE上の論文にリンク(ぐるっとサーチ)が張られています。まだ試行的ですが一部の医学薬学系雑誌で実現しています。日経メディカル オンラインが指定する雑誌のうち学協会の承諾を得たものが対象となり、日経メディカル オンラインへ書誌情報、全文情報を提供しています。

**●投稿審査システムの機能追加****◆投稿者情報を登録可能に**

今までは投稿のたびに投稿者情報を入力して、原稿別にパスワードを発行する仕組みでしたが、投稿者ごとにアカウント登録できるようにすることで、入力の手間を減らし原稿管理をまとめられるようになりました。

これは投稿者用のデータベースを提供することにより実現しています。この投稿者データベースは、投稿者としての情報に加え、査読者、編集委員等の情報としても活用することができます。

主な機能として、原稿管理を投稿者のアカウントに集約することができます。投稿者アカウントのトップ画面から、投稿した原稿や途中保存した原稿を一元的に管理できます。投稿時の著者情報入力の軽減、入力途中の中断保存、パスワード忘れの際の自動再発行機能なども用意しています。

この投稿者データベースを利用することにより投稿者の負担が軽くなるかどうかは、投稿数とも関係してきますので、従来の原稿ごとの管理と投稿者データベースのどちらを利用するかは学協会の判断になります。ご利用にあたっては学協会のご相談を受けて適切な利用方法についてご説明させていただきます。

◆投稿原稿の自動PDF化

Word形式などのファイルをアップロードすると、PDFファイルに変換できる、PDF自動変換機能の提供を開始しました。これによりPDFを作成する環境を持たない投稿者も原稿をPDFでアップロードできるようになりました。投稿者がWordファイルを投稿するとJ-STAGE側でPDFに自動変換して、このPDFを査読者等が閲覧することになります。このサービスを利用するには、若干の利用条件がありますので、ご説明の上採用して頂いています。

本機能の開発は2段階に分けて順次進めています。先ず第1段階では、WordからPDFへの変換として、行番号を自動で挿入できる機能、ヘッダとフッタにジャーナル名等を自動で挿入できる機能を提供します。

第2段階としては、Wordだけではなく、画像ファイル(JPEG、BMP)も変換対象として、複数ファイルの結合をサポートします。事務局用の機能として、投稿者がPDFに変換したファイルを参照できる機能を検討しています。これらの機能については提供される時期が決定しましたら別途お知らせいたします。

●図入りの抄録や冊子の表紙イメージが掲載可能に**◆抄録画面に化学構造などを表示(Graphical Abstract)**

それぞれの記事の書誌事項画面に化学構造などの図表の画像ファイル(GIF、JPEG、PNG)を表示できる機能です。

また、登載時に編集した目次データの事務局でのダウンロードも可能になりました。

◆トップページへのサムネイルとして雑誌表紙画像を表示

雑誌表紙の画像をサムネイルとしてJ-STAGEで公開の雑誌トップページに表示できます。表示されている表紙画像をクリックすることにより、最新の号の目次が表示されます。表紙画像は、号が変わる都度差し替えることができます。表示できる画像ファイルはGIF、JPEG、PNG形式で、差し替えは編集部用のWeb画面から簡単に行うことができます。

※Graphical Abstractおよびサムネイルの機能の導入には、編集ツールから制作支援システムへ移行していただく必要があります。導入をご希望の学協会は、J-STAGE担当にお尋ね下さい。



●書誌情報による記事リンクが可能になりました (OpenURL対応)

J-STAGEでは、文献のメタデータ (書誌情報) をURLとして送信するための標準形式を定めた国際規格OpenURLに対応し、J-STAGEに登載されている記事への書誌情報によるリンクを実現しました。これにより、JOI (JST Object Identifier) やDOI (Digital Object Identifier) を意識しないで容易に記事リンクを張ることができます。

OpenURLを利用することにより、図書館システム (リンクリゾルバー)、学術情報サービスからの閲覧がより充実するとともに、学協会サイトからの書誌検索なども簡単に作れます。

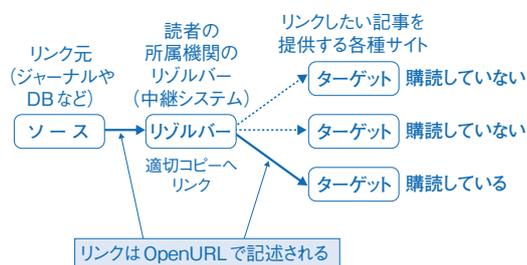
具体的な利用方法については、J-STAGE TOPページ下方のリンクポリシーをご覧ください。

◆OpenURLとは

利用者へのAppropriate Copy (後述) の提供を実現する手段として2000年に提唱された、ソース・リゾルバー・ターゲットといった情報サービスのサーバの間でやり取りするメタデータの記述方法 (書誌情報によるURL組み立ての標準規格) です。主に、論文全文へのリンク方法として利用されています。

提唱者Van de Sompelらによるver.0.1が欧米の大学図書館やベンダーを中心に普及し、2005年春に大幅な拡張性を持たせたver.1.0がANSI/NISO規格 (Z39.88-2004) として承認されました。

Appropriate Copyとは、利用者の背景 (所属機関など) に合った適切な論文のコピーのことです。例えば文献データベースなどのサービス (ソース) から目的の論文の全文情報へリンクをしようとするとき、所属機関で導入しているシステム (リゾルバー: S・F・Xなどが有名) が出版社サイトやドキュメントデリバリーサービス、所属機関の所蔵目録などの複数の情報源 (ターゲット) から最適なものを選び出し利用者に提供することで、所属機関の情報収集のコスト削減が図れます (右図)。



J-STAGE登録誌数とアクセス状況

2006年10月30日現在、J-STAGEに登載されている資料は、483誌 (ジャーナル335誌、予稿集・要旨集100誌、報告書7誌、JST報告書41誌) です。また、9月度は登録総論文数215,680記事に対して、アクセス数は次表のとおりです。登録資料・記事も増加しており毎月アクセスが増加しています。

分類	件数
全アクセス数	2,010,886
全PDFアクセス数	472,864

リンクサイト	件数	リンクサイト	件数
CrossRef	27,480	Google	100,357
PubMed	172,228	J-STAGE	647
ChemPort	12,215	JOI	23,889
JDreamII	631	Journal@rchive	17

上記表からGoogle検索の申請を頂いている資料は約120誌と公開資料の1/3ですが、確実にアクセス数が増加していることが伺えます。各種検索システムからのリンクにより、雑誌トップページからの閲覧の割合が減少して、直接記事を読むアクセスが増加しているようです。

■ 編集後記 ■

♪9月より電子ジャーナル課に配属になりました。微力ですが、みなさまにご指導いただきながら努めてまいりたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。(い)
 ♪アーカイブ事業始動とともに配属となり、サイト公開されてから半年、ようやく(今頃?)仕事が軌道に乗ってきました。ぼちぼち落穂拾いをはじめましたので、対象学協会の皆様には忘れた頃の連絡を差し上げるかも…。(あ)

★J-STAGEおよびJ-STAGEニュースに関するご意見・ご質問をお待ちしております。
 JST文献情報部 電子ジャーナル課 (contact@jstage.jst.go.jp)



<http://www.jstage.jst.go.jp>

編集 独立行政法人 科学技術振興機構
 文献情報部 電子ジャーナル課
 発行人 文献情報部長 曾根 由紀子
 住所 〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ
 電話 03-5214-8455 (ダイヤルイン)
 E-MAIL contact@jstage.jst.go.jp